

一九 微妙院様薨去後被仰出

長九郎左衛門
小松
横山左衛門

覺

一、國元江戸用所改申出儀は格別、其外諸事中納言殿被申付置通相違有間敷事。

一、五三年之内訴訟之儀申上間敷候。急切之儀は不依何事、其組頭致吟味、前田對馬・奥村因幡・津田玄蕃に申聞、三人并与頭より、今枝民部・江戸組頭迄可申越候。何者によらず、直に申越儀承引有之間敷事。

一、江戸に如何様之儀有之候共、指圖之外扶持人たるもの相越間敷候。左様之節家中面々より使者飛脚越候儀、對馬・因幡・玄蕃に斷指圖次第に可仕事。

右之趣可申付者也。

（寛治元年）
戊十月廿七日 御印

本多安房殿

長九郎左衛門殿
横山左衛門殿
前田對馬殿
奥村因幡殿
小幡宮内殿
津田玄蕃殿
今枝民部殿

覺

一、國之仕置別紙書付之通、中納言殿如在世、本多安房・長九郎左衛門・横山左衛門・小幡宮内申付候條、存寄之通無遠慮可被相談候。一月兩度充四人之宅に寄合、其日之亭主用之儀をしらべ、無滞様に可仕候。但、急用有之時は何ケ度も寄合可申事。

一、中納言殿如在世、前田對馬・奥村因幡・津田玄蕃月切に用番定置、國中仕置、存寄之通無遠慮萬端可申付候。并伊藤内膳・菊池大學、是又如前々諸事可致相談事。

一、江戸萬端用之儀、中納言殿如在世、今枝民部可申付候。

并青山織部、是又如前々諸事可致相談事。

右可相守此旨者也。

（寛治元年）
戊十月二十七日 御印

本多安房殿

長九郎左衛門殿
横山左衛門殿
小幡宮内殿
前田對馬殿
奥村因幡殿
津田玄蕃殿
今枝民部殿

覺

一、公儀御用御法度之事。

一、吉利支丹宗旨吟味之事。

一、他國と出入之事。

一、女過書如前々判形可仕事。

一、三千石以上之者縁邊之事。

一、參宮并國內に湯治爲養生上京暇之事。

一、侍中曲事并喧嘩等仕出し、當座に裁許無之不叶儀之事。

一、侍共國中立退候刻之事。

一、自然百姓共大勢申合出入有之刻之事。

右前田對馬・奥村因幡・津田玄蕃・今枝民部可申付候。此外不依何事、四人より申聞儀於有之は可致談合者也。

（寛治元年）
戊十月廿七日 御印

本多安房殿
長九郎左衛門殿
横山左衛門殿
小幡宮内殿

加賀守様御意之覺

組中行儀、作法能様に萬端相心得可申候。前田對馬・奥村因幡・津田玄蕃御國諸事御用被仰付候。申渡儀、組中面々承引仕候様に、兼而組頭心得尤被思召候。

肥後守様御意之覺